

通信 「ちえふる」 10月号

読書はなぜ大切なのか

～読書がもたらす効果について～

みなさんは、どれくらいの本を読んでいますか。ほとんど本を手にしなない人もいれば、毎日のように読んでいる人もいます。子どもの頃から読書は推奨され、読書の時間や読み聞かせ、図書紹介や感想文、それに親子読書など様々な形で本に触れてきました。

そこで、読書の秋に、読書はなぜ大切だと言われるのか、また、その効果を紹介したいと思います。(色々な考えの中の一つです。)

まず、読書がなぜ大切なのかです。一つは、「本からでしか得られない内容がある」ということです。ネットで検索すれば知りたい内容をすぐに手に入れることができる時代ですが、本から得られる情報は著者の考え方や生き方が反映されています。自分ではない人のそれに触れることで、より深く考えた知識・内容になると思われれます。もう一つは、「質のいい情報を得ることができる」ということです。一つ目と似ていますが、自分の目で読み、自分の頭で解釈した情報は、知りたかった内容を実感を伴って得ることができると思います。

次に、読書で得られる効果についてです。既にご存じのことが多いかと思いますが、そのいくつかをまとめてみました。



※室内の図書
(市立図書館より)

①文章力が向上

読んでいく中で、効果的な言い回しや自分が使わないような文章に触れるため、自然に文章能力が向上する。

②想像力が豊かに

文字から背景や登場人物の考え、思いを想像することになるため、想像力を働かせる力が豊かになる。

③語彙が増える

知らなかった漢字や言葉が出てくることがあるため、調べることで語彙力や知識が身につく。

④ストレスの解消

ちょっと体を動かしたり、飲み物を飲んだりと同じように、読書にはストレス解消の効果もあるそうです。

上記の想像力を働かせる経験は、相手の考えに寄り添ったり、思いやったりすることにもつながります。他にも、本の中では、実際には叶わない夢のような世界が広がったり、過去や未来の様子をのぞいたりすることができます。本を読むということは、自分の世界や価値観を広げる方法の一つなのではないでしょうか。

◆今月の休館日は

10月21日(月)です。

天童市学習支援室
「リバテラスちえふる」
Tel (023) 651-6205